

目指す学校像	建学の精神「人間是宝」の理想を掲げ、校訓「今日学べ」を推進し、生徒一人一人の内在する可能性を開発するとともに、多様な人々と協働しながら時代の変化を乗り越え、社会に貢献できる人材を育成する。
--------	--

重点目標	1 学習指導（ICT教育と協働学習の実践、学力向上）
	2 生徒指導（担任による日常指導の徹底、各部署との連携）
	3 情報発信（学校の魅力を様々な手段で積極的に発信、理解者・支援者を増やす）

＊重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。

＊番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に応じた「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

評価	A	高評価
	B	良 好
	C	概ね良好
	D	要努力

学校関係者 22名
教 職 員 20名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価 （3月）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 ICT教育と協働学習を推進するとともに、社会で生き抜く力の育成と学力向上を図っている。	①ICT教育と協働学習の実践とその工夫、指導力の向上 ②生徒個々の家庭学習の充実と基礎学力の向上 ③プレゼンテーションリテラシーを高める積極的な取り組みとその能力の育成	①職員研修・授業見学を通して、ICT活用技術を高めるとともに、教科指導力を向上させる。 ②PCDA手帳やClassiの活用を指導し、PDCAサイクルに学習習慣基づいた学習習慣を身に付けさせ、基礎学力の向上を図る。 ③総合的な探求の時間やホームルーム、教科授業等においてプレゼンテーションリテラシーを高める機会を作る。	①ICT活用状況と教科指導力の向上、新しい試みは見られたか。 ②PCDA手帳やClassiの積極的な活用は見られたか。校外模試・実力テスト等生徒の学力向上が見られたか。 ③総合的な探求の時間やホームルーム、授業において、生徒の発表機会を積極的に作り、プレゼンテーションリテラシーを高める試みを行ったか。	①教科授業におけるiPad利用率85.1%（10～11月調査）、定期考査におけるデジタル採点システムを導入した。 ②各クラスClassiを用いた家庭学習記録を実施、2，3学年はPDCA手帳とClassiを併用した。 （Classi学習記録1年2.8日/週、2年0.4日/週 4～2月の統計） ③総合的な学習の時間や教科授業において、プレゼンテーションリテラシーを高める試みが見られた。	B	次年度はICT教育と協働学習の質を高め、生徒たちが興味をもつ授業展開を行う。合わせて、学力向上を図る。特に全教員が「Classi」や「MetaMoj ClassRoom」など学校で使用している学習アプリの活用技術を研究し、効果的に授業に活用できるようにしていく必要がある。更に、生徒のプレゼンテーションリテラシーを高める取り組みを推進する。
	【課題】 全職員がICT教育と協働学習の指導力を高める。さらに生徒の積極的な学びを推進することで学力向上に繋げる。					B	
2	【現状】 基本的な生活習慣を身につけさせることにより、高校生としての自覚を持たせる。社会的マナーについての指導を徹底させ、社会に有為な人材の育成に努めている。	①極め細やかな生徒指導の実践 ②積極的な面談の実施と生徒理解 ③学校生活アンケート調査の実施と活用、問題行動といじめの防止の早期発見、早期解決	①生徒の生活習慣の把握 ②二者面談による生徒理解、悩み事の早期発見、挨拶の励行 ③学校生活アンケート調査の実施と情報共有、各部署間の連携、スクールカウンセラーとの連携	①クラス内の生徒の生活習慣を把握できているか。 ②適切な回数の二者面談を実施し、生徒理解ができているか。生徒の悩みを早期に発見し、生徒に寄り添う指導を展開できたか。 ③学校生活アンケートを効果的に活用できているか。各部署、スクールカウンセラー等の連携を高められたか。	①SHRや面談等で生徒の生活習慣の把握に努めた。 ②二者面談は各学期に1度実施し、生徒理解に努めた。 ③PCDA手帳、学校生活アンケートを活用し、生徒理解や学力向上に努めたが、現状では様々な課題が残る。朝の打合せ等、科・学年団間や各部署との連携強化を図り、生徒把握・生徒指導に生かした。	B	問題行動への予防や初期対応等を組織的に行うことができている。更に部署間の連携を務め、継続してその対応に当たる必要がある。また、面談やClassi等の活用により、生徒の悩みや問題を早期に発見し、その問題解決にあたる必要がある。合わせて、様々な事情をも生徒たちに寄り添う指導を実践し、生徒の学習意欲を引き出す。
	【課題】 担任・職員間の意識の差をなくし、共通理解のもと、生徒指導にあたるとともに、各部署との連携を強める。					B	
3	【現状】 学校説明会・個別相談会・学校HP・公式SNSを中心に情報発信を行っている。学校HPや公式SNSのアクセス数は増加している。	①学校HPの積極的な情報発信と固定ページ等のタイムリーな更新 ②学校説明会・学校HP等における生徒の声による学校の魅力発信 ③地域や他校との交流と情報発信 ④体験授業等の充実と本校の魅力の発信	①学校HPにおける校務分掌上の組織力の強化と連携 相互チェック ②学校説明会や学校HP等における生徒のプレゼン等の機会の確保、積極的な取り組み ③地域や他校との交流機会の確保、積極的な取り組み ④前年度実施の体験授業に加え、新規での企画・立案・実施と情報発信	①学校HPや公式SNSにおいて、本校の魅力を伝えることができたか。校務分掌組織で連携し、相互チェックができたか。 ②学校説明会や学校HP等において、本校生の声を届ける積極的な取り組みを実践できたか。 ③地域や他校と交流機会を持ち、情報発信をすることができたか。 ④新たな体験授業を企画し、実践することで本校の魅力を伝えることができたか。	①学校HP年間閲覧数 約570,000回（1日当たり約1,500回） 公式Instagram年間閲覧数約31,000,000回（1日当たり約87,000回） ②学校説明会で生徒説明を実施し、学校HPでも生徒の声を多数配信した。 ③食育実践科・生徒会など地域や他校との連携を実施した。 ④ICT教育と協働学習体験に加え、芸術類型体験授業を実施した。少人数での実施であったが、本校の魅力を伝えることができた。	B	学校説明会等生徒が中学生・保護者に直接話す機会を増やす。また、授業体験等、中学生に本校の教育を理解してもらえる機会を増やすとともに、体験内容を充実させる。学校HP等情報発信においては、更なる組織力を高めるとともに発信力を高め、生徒募集に生かす。
	【課題】 多くの中学生・保護者に本校の情報が伝わり、生徒募集に繋がるような情報発信が必要である。						

学校関係者評価
実施日 令和7年3月15日
学校関係者からの意見・要望・評価等
・ICT教育と協働学習の実践により、意欲的に学習に励んでいる。 ・生徒を担当の先生、顧問の先生だけでなく色々な先生方が関わってよく見ていてくださっていて、指導も迅速だと思う。
・各学期毎に面談を実施することで進路希望が具体的に定まってきている。 ・子どもが充実した3年間を過ごすことが出来たと思う。親として満足している。
・学校説明会、個別相談会、体験授業など、学校について知る機会がたくさんある。 ・ホームページでは、学校の様子や生徒の様子を詳しく知ることができた。